

コーディネーターとしての事業に対する意見シート

■事業名：青少年健全育成協働・連携促進事業

■コーディネーター氏名：中盛 汀

所属：W.T.A まちづくりセンター

■ふりかえり会議開催年月日：平成 17 年 3 月 3 日(木)

1. 協働のプロセスについて意見

事業の企画案を募集し、採択されて協働がスタート。事業を進めていく中で、参加者が少なく始めの計画を変更して事業を組み立てなおすなど、問題が発生したときにはじっくり話を進めて両者でいい方向に持っていった、とのこと。ただ、実際に関わってきてくれた教育委員会とは、後になって関わり始めてもらっただけだったので、早い段階から他の部署とのつながりも持てばよかった、との声も行政側から出た。チラシの配布先の検討や配布についてはもう少し話し合っただけで取り組むこともできたのではないかと。全体的には両者、満足のいくプロセスを歩めた様子。

2. 成果についての意見

ひきこもりや不登校に関わる親に対する支援で、企画した大人の心理サポートの講座では、予想していた人数が集まらず、予想していた層の参加者が少なかったことで、冬に企画していた事業を見直すという臨機応変な対応をとられている。そこで、参加者200名というかなりの参加を得られたそう。また、子どもに近い年代の当事者の体験談からは元気をもらえたり、より身近に感じられた、との感想があり、この事業としては今年度で終了するが、教育委員会との共同開催で来年度もすでに講演会の開催が決定しているとのこと。プロセスの中から新しいつながりが生まれ、次のステップに進めているのはいい展開。

3. 課題・改善の整理とまとめ

テーマである不登校や引きこもりの問題については、誤解を招くような広がり方をしないか、懸念されている点もあるとのこと。問題が深刻化して数が増えたりしないように、誤解のないものを大人に子どもが安心して、信頼できるように伝えていきたい、との声もあり、今回の事業実施から得た経験やヒントをもとに、展開を期待したい。

4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

もともと今、あちこちで展開されている「子どもの居場所」は、学校に通っている子の放課後や休日のたまり場的な要素が多く、不登校の子どもたちが集えないようなものであるとの問題が出された。この事業により、そういう問題も含めて、改めて見えた部分もたくさんあるようで、ぜひネットワークを広げ、よりたくさんの視点から、たくさんの活動から、たくさんの現場からの声から見える子どもたちの現状を認識し、三重県内の子どもたちにとって生きやすくなるような提言を県に持っていけるような展開を期待したい。また、今後の課題として、不登校の子どもたちが通うフリースクールもちゃんと出席日数を加算してもらえていることから、関わる教師たちの人件費の問題も、より多くの団体からも声として出していき、時間がかかっても子どもたちにとって必要な場所に関わる先生たちが安心して関われるような展開へとかわっていけるように、ほかとのネットワークを築いていってほしいと感じた。

また、講演会のDVDを使った県内各地での啓発勉強会なども有効ではないか。フリースクールに関わる子どもの数も限られることから、あちこちで同じような展開ができるように、活動の輪を広げていってほしい。

チェックシートについて、分かりにくい、理解のズレがあるので語句などについて解説があれば、との声が出された。これもぜひ有効に活用されるチェックシートとなるために検討されたい。

コーディネーターとしての事業に対する意見シート

- 事業名：平成 16 年度青少年健全育成連携促進事業
- 「不登校の子どもの学びの支援と不登校に関わる大人のための心理的サポート」
- コーディネーター氏名・所属：畑中 英樹(さかなの目たんけん隊)
- ふりかえり会議開催年月日：平成 17 年 3 月 24 日

1. 協働のプロセスについて意見

NPO と行政が良好な関係で協働できたと、両者の意見が一致しました。

当初、行政側がやや「見守る」姿勢であったそうですが、その後、中間ふりかえり会議をしたということで、関与が積極的になったことは評価できます。また、企画した講座のうち参加者が極端に少ないものがありました。すぐに「広報が足らなかった」という結論には行かず、行政と協議した上で、講座の内容を評論型から体験談型に修正した結果、参加者が倍増しました。「なぜ参加者が少ないのか？」を内容の面からも、行政と意見交換して修正したというのは、とても評価できる姿勢です。

2. 成果についての意見

県内では不登校・ひきこもりの講座は少ないと思いますが、NPO と行政が協力して、このような場を企画したことは意義があると思います。また、子どもだけではなくその親も同時にサポートすることで、更に多くの受益者が得られたと思います。

3. 課題・改善の整理とまとめ

この提案事業制度は出来るだけ多くの NPO と協働したいという趣旨で、2 年度続けて事業を継続することはありません。そのため事業が採択されても、NPO にとっては短期計画にならざるを得ません。そこで行政側のスケジュールに合わさないためにも、今後は長期計画を策定した上で、この一年は県の提案事業を実施するようにすれば、今後の活動にさらに弾みがつくと思います。また、行政側はもっと広報の面で NPO のバックアップができたのではないのでしょうか。そして NPO 側も協働事業の詳細な報告を、ホームページに掲載すれば、更に多くの方にとって参考になるでしょう。

4. 事業全体についての意見・感想(自由に記入してください)

フリースクールは不登校に悩む子どもや親を様々な面でケアしていくという所で、現在の公教育ではなかなか補えない機能を持っています。同時に悩みを持つ子どもや親に、別の選択肢も提供しています。不登校、ひきこもりの問題は、行政だけではなく家庭、NPO、地域住民など多様な主体が連携を組まないと解決には近づかないということが再確認できました。今後も多くの選択肢を地域社会が用意して、それを支える仕組みづくりが急務だと思います。